

シャーデンフロイデに対する嫌悪と妬みの効果

1420425 北田 渉

指導教員 三船恒裕

研究背景

シャーデンフロイデとは他人の不幸を見聞きした際に感じられる喜びの感情を指す。近年シャーデンフロイデに対する研究が進む中、妬み感情はシャーデンフロイデに大きく影響を及ぼす要因の一つとして取り上げられてきた。Hareli & Weiner (2002) では妬みとシャーデンフロイデの関連性は見られないという結果が示された。この結果の原因として実験シナリオの感情を操作した場面の時間軸が違うことに着目し、時間軸を揃えたシナリオでは妬み感情とシャーデンフロイデとの間に関連が見られるのではないかと仮説を立てた。

研究目的

Hareli & Weiner (2002) 内の4通りの実験シナリオをすべて社会人時代に統一し、時間軸を揃えた。その後、得られたデータからシャーデンフロイデと妬み感情に関連があるか否か検証することを目的として本研究を行う。

調査・分析方法

Hareli & Weiner (2002) の研究を参考に調査対象者自身と調査対象者の同級生が登場する4つのシナリオを作成した。シナリオは（嫌悪なし-妬みなし、嫌悪あり-妬みなし、嫌悪なし-妬みあり、嫌悪あり-妬みあり）の4つのパターンを用意し、調査対象者には4つのシナリオの内いずれか1つをランダムで提示した。その際、シナリオの時間軸を統制するために、調査対象者が社会人の時代を想定するシナリオで統一した。シナリオを提示した後に調査対象者の同級生に不幸な出来事が訪れる場面を提示し、シャーデンフロイデを喚起させた。その際に得られた尺度項目の得点を用い、シャーデンフロイデの喚起に嫌悪感情や妬み感情と関連があるのかを分析し調査した。

分析結果

操作チェックより、嫌悪感情、妬み感情の操作は概ね成功した。また、嫌悪感情を含む条件のシャーデンフロイデの得点は嫌悪を含まない条件よりも高かった。また、妬みも同様に妬みを含まない条件より妬みを含む条件の方がシャーデンフロイデの得点が高かった。また、嫌悪と妬みに交互作用は見られなかった。

考察・結論

本研究では、妬み感情とシャーデンフロイデとの間に関連が見られた。また、この結果から時間軸がシャーデンフロイデの喚起に影響することが示された。今後のシャーデンフロイデに関する研究の際にも時間軸というものに十分注意が必要となる。